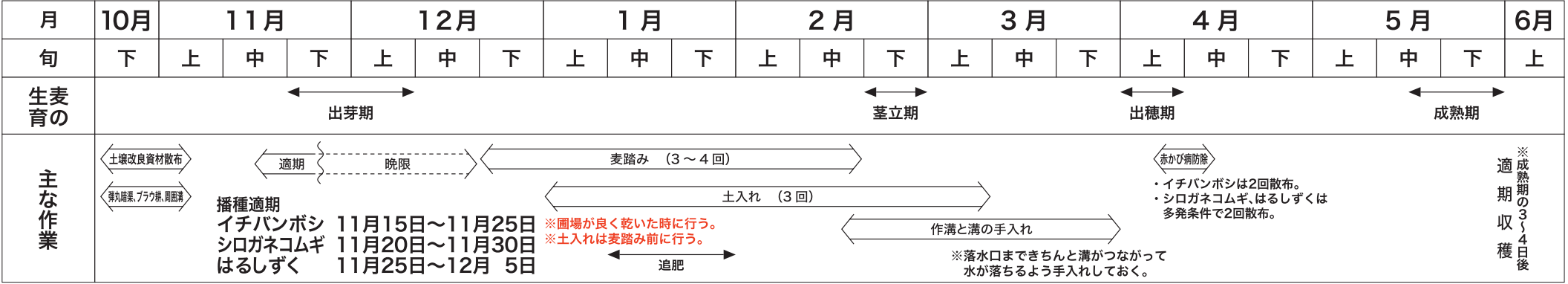


麦 類 (収 量 目 標)
450kg

※排水対策を徹底し、生育収量を向上しましょう。（弾丸暗渠、心土破碎、ブラウ耕、周囲溝等）
※稲ワラを全量すき込み、地力を向上させましょう。（耕深は10cm～12cmを確保）適正な石灰施用で酸度矯正しましょう。
※赤かび病防除は必ず行いましょう!!
※小麦はタンパク質含有率10%の目標達成のため基準に沿った適正な追肥を行いましょう。
※異種混入が発生すると販売が困難になるので毎年必ず種子更新を100%行いましょう!!

麦類の生育と主な作業



1.品種特性

※福岡県における主要農作物の品種特性より（シロガネコムギは筑後分場のデータ）

項目	出穂期	成熟期	稈長	穂長	㎡穂当り数	耐倒伏性	耐赤かび性	穂発芽性	千粒重	10収a当り
品種名										
イチバンボシ（はだか麦）	月 日 4.6	月 日 5.21	83 ^{cm}	5.5 ^{cm}	381 ^本	やや強	中	難	32.8 ^g	436 ^{kg}
シロガネコムギ（小麦）	4.4	5.24	80	8.1	556	極強	中	易	33.4	532
はるしずく（二条大麦）	4.4	5.17	87	6.9	583	強	やや強	難	49.0	543

2.種子の準備と播種

(1) 種子消毒

対象病害虫	薬 剤 名	処理方法および処理時期
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子1kgあたり5gを種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ（小麦）	（劇）アドマイヤー水和剤 クルーザーFS30	乾燥種子1kgあたり1.5gを種子粉衣する。 乾燥種子1kgあたり6mlを種子塗抹する。

※ヤギシロトビムシが多発している圃場（小麦）は、クルーザーFS30を使用する。

(2) 播種時期と播種量（ドリル播き）

品種	播種時	適期播	遅播
イチバンボシ		11月15日～25日	11月26日～12月10日
播種量(kg/10a)		6	7
シロガネコムギ		11月20日～30日	12月1日～10日
播種量(kg/10a)		7	9
はるしずく		11月25日～12月5日	12月6日～20日
播種量(kg/10a)		5	6

- イチバンボシは硝子率を抑えるために、大豆あと作は避ける。
- 大豆あと作の場合は、それぞれ播種量を1kg少なくする。
- 深播き（5～6cm）は出芽が遅れ、分げつの発生も少なくなるので覆土は2～3cmとする。
- 除草剤の効果を高め、薬害を回避するには、碎土を充分に行う。また、土壌が乾燥している場合は、鎮圧を行う。
- バラ播き：2割増し 粘土質圃場：1割程度多めに播種する。

3.施肥

(10a当り)

品 種 名	土壌改良資材 (酸度矯正又はケイ酸補給)	基 肥	追 肥
		ちくこのめぐみ444	1月中旬～下旬 麦追肥一発2号
イチバンボシ	生石灰 100～160kg 消石灰 100～160kg ミネラルG 200kg	水稻あと30kg 大豆あと20kg	20kg
シロガネコムギ		水稻あと40kg 大豆あと20kg	40kg
はるしずく		水稻あと40kg 大豆あと20kg	20kg

- 土づくりのため稲ワラを全量すき込みましょう。
- はだか麦、大麦（イチバンボシ、はるしずく）は特に酸性に弱いので、生石灰又は消石灰を散布し土壌改良を行う。
- 大豆あと作の場合、基肥を基準の半量にする。

4.排水対策

- 麦は湿害を受けやすいため、排水対策を徹底する。
- 播種前に周囲溝を施工し、表面排水を促す。
- 3月になると降雨が多くなるので、2月いっぱいには溝さらえや排水対策を行う。
- 弾丸暗渠は2～4mおきに深さ30～40cmで引く。

5.麦踏み(3～4回)

- 時期 12月下旬～2月中旬まで
（本葉3、4枚～莖立期（節間伸長開始期：草丈20～25cm程度）まで）
- 麦踏みは、土入れ後に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。

6.土入れ(3回)

- 時期 1月上～中旬（本葉3、4枚）、2月上旬頃、3月上旬頃。
- 1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
- 土入れは麦踏み前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
- 土入れは倒伏防止・雑草防除・排水促進に効果があるので必ず実施する。

7.雑草防除

時期	適用雑草	除 草 剤 名	処理時期	使用量	使用上の注意
耕起播種前	一年生・多年生雑草	ラウンドアップマックスロード	播種前～出芽前まで	500ml (水量 50～100%)	周辺への飛散防止を徹底する。
播 種 後	スズメノテッポウ等のイネ科雑草とミチヤナギ、ノミノフスマ等の広葉雑草	リベレーターフロアブル リベレーターG（粒剤）	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで) 播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (水量 100%) 4～5kg	フロアブル剤は薬量に注意をして使用してください。 本剤の使用により、葉身に白化や黄化が見られる場合がありますが、その後回復します。大雨が予想される場合は使用を避けてください。 はだか麦・大麦には薬害のおそれがあるので麦の出芽前に使用する。
生育初期	イネ科雑草及び広葉雑草 ミチヤナギ キンボウゲ アメリカフウロ ノミノフスマ	ハーモニー細粒剤 F ハーモニーDF	播種後から麦3葉期 (雑草発生前から)発生始期 播種後～節間伸長前 (但しスズメノテッポウ5葉期まで)	4～5kg 5～10g (水量 100%)	土壌が乾燥しているときは効果が劣る。 スズメノテッポウ2葉期まで。 隣接の野菜・豆類等に飛散しないよう注意する。使用器具は散布後消石灰で洗浄する。カスノコグサ3葉期まで。 小麦は穂ばらみ期まで使用可能。
生育中期	キンボウゲ アメリカフウロ ヤエムグラ ヤエムグラ ノミノフスマ カラスノエンドウ キンボウゲ アメリカフウロ	バサグラン液剤 エコパートフロアブル MCPソーダ塩	はだか麦・大麦 収穫90日前まで 小麦 収穫45日前まで 節間伸長開始期まで (但し、収穫45日前まで) 幼穂形成期 (但し、収穫45日前まで)	100～200ml (水量 70～100%) 50～100ml (水量 100%) 200～300g (水量 70～100%)	雑草3～6葉期に散布 (2月上旬頃) カラスノエンドウへの効果は低い。麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育には影響しない。 カラスノエンドウに効果高い。気温が高いほど効果が安定する。分げつ抑制効果があるため、茎数を十分確保してから散布。(目安:3月上旬)

- 細粒剤は飛散しやすいので無風状態で散布し隣接は場等へ影響がないように注意する。
- ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFはどちらか片方しか使えません。
- ハーモニー剤は抵抗性のあるスズメノテッポウには効果がありません。



8.赤かび病防除 ※1回目の防除は、ミラビスフロアブルを使用する。

麦種	散布時期	農薬名・倍数、量 希釈水量100ℓ	使用時期	使用回数
・イチバンボシ（はだか麦）	・開花期 出穂後7～10日	ミラビスフロアブル・2000倍	収穫前14日	2回以内
		トップジンMゾル・1500倍		
・はるしずく（二条大麦）	・药殺抽出期 出穂後12～14日	トップジンM粉剤DL・4kg	収穫前30日	1回
		トップジンM水和剤・1500倍		
・シロガネコムギ（小麦）	・開花期 出穂後7～10日	ミラビスフロアブル・2000倍	収穫前7日	2回以内
		トップジンMゾル・1500倍		
		トップジンM粉剤DL・4kg		
		トップジンM水和剤・1500倍		



9.収穫・乾燥

- 成熟した順に収穫しましょう。収穫適期は子実水分20～25%です。
- 早刈りは損傷粒やむれ粒の原因、刈り遅れは過熟によるロスが多く、品質低下につながる。
- 自家乾燥する場合は収穫後すみやかに乾燥を始めます（適正乾燥）。仕上げ水分は、イチバンボシ12.0%以下、はるしずくで12.0%以下、シロガネコムギで11.5%以下を目標とする。

農薬購入の際は必ず印鑑を御持参下さい。

- 天候・気象状況に応じた栽培管理を心がけましょう。
- 農薬のラベルを確認して散布しましょう。
- 農薬の近接作物、宅地への飛散を防止しましょう。